

2023 年 ITS 欧州会議概要報告

国際調整室 上席調査役 広瀬 順一

REPORT

今年の5月22日から24日にポルトガル・リスボン市の
 kongress会議施設（昨年の TRA 開催場所と同じ場所）
にて開催された ITS 欧州会議に出席できたので、その内
容を説明したいと思う。

1 会議の概要

参加者は2500名程度であり、セッション数は113であ
った。テーマは「将来のモビリティにイノベーションを！
ITSはゲームを変えるもの！」であった。会場外観は下記
の通りである。



会場外観

2 セッション

・プレナリーセッション1

ーデジタルイゼーション DX は地球に優しい生活を提供
するスワルコ社

目指す目標：渋滞解消、事故減少

そのためにはデータシェアリングがキーとなる。

ETC2.0のデータの他省庁との共有化が待たれる。

（現状は厳しく、デジタルインフラ構築をなんとか形に
できたのはオランダ、ドイツ、オーストリアくらい。OEM
も協力しないのでデータがリッチにならない、など課題は
多い：モナテック社談）

・CCAMの動向

ー現在は資金の配布一段落の状況で成果はこれから。

ロッテルダムーオスロ間の商用車L4大型プロジェクト
は順調に準備開始した模様。

やはりL4の商用車の実用化に真剣に取り組む様である。
このプロジェクトには港湾の物資（コンテナ）移動にL4
車両を使用するものも含まれる。

ークラウドにデータを集約しAI処理するプロジェクトも
一部予定されている。

ーISA「インテリジェントスピードアシスト」：V2Iを活
用して速度制限情報をマップとともに車両に送り自動的
に、アクセルを踏んでも速度超過しないアプリの実験も
計画中。

カメラで標識認識、その情報をクラウドにおくり TN-
ITS（デジタルマップ）のサービスの一貫として車両に
もどし制限速度情報として活用し事故防止、CO2排出
削減、事故削減を目指すもの。Tractebel社が発表。欧
州の2024年施行時限が迫っているが厳しい状況。

・電気道路

ーVTT フィンランド VTT 技術研究センターの方とコネ
クションが出来 TC268SC2WG2の国際標準化活動への
参画を依頼した。

・Hi-Drive

ー延長 ODD を実現するためインフラの助けをかりて自動

運転を実現できるか確認するプロジェクトの開始状況の説明があった。具体的説明はなかった。

・NAPCORE

—ナショナルアクセスポイントを各国で準備するに当たってサポートするプロジェクトでありデジタルインフラの肝となるもの。各国で進んでいない。

・EV 充電インフラのデジタルインフラ

—ポルトガルから充電インフラの情報共有化の報告あり。欧州では公共デジタルインフラで情報共有化することが将来義務付けられるため、すでに実行している。充電量、電池温度上昇値、使用状態など→市の貴重なビッグデータの一部になっている。

・「EU 法規制の準備状況」AFIR (Alternative Fuels Information Regulation)

—2027 年施行目標。各国のデジタルインフラ（ナショナルアクセスポイントと呼ぶ）に EV 等の代替燃料重点事業者は静止、リアルタイムの情報を IDRO (Identification Registration Organization) を通じ上げること。

今後データフォーマット、上げる周期など細かく決めていく。

(今のところ電気道路は視野にないことを口頭で確認したが要注意)

・ドバイ 2024 年 ITS 世界会議

—2025 年までに完全 EV 化を目指す方針
電気道路はまだ視野にない模様。

3 展示会場

・注目品

—韓国が OBU をスマホに置き換えた提案をしていた。MHI とシンガポール向けに話を進めているとのこと。小型 OBU とスマホをBluetoothで接続するもの。

・TN-ITS と DATEXII の協業合意式

—欧州のデジタルマップとデジタルインフラを合体させ DX を加速させる署名式が敢行された。標準化団体の合体と理解できる。
GIS 化が加速される模様である。